



優秀賞

「人を笑顔にする力」を信じて

高岡市立野村小学校5年 若杉 蒼佑

僕の記憶の始まりには、いつも歌がありました。三歳の頃、僕が歌うと誰よりも先に笑顔になってくれたのは父と母でした。その笑顔が見たくて、僕は毎日夢中で歌いました。「人を笑顔にする力」それが僕の夢の原点です。

小学生になり、両親のすすめでピアノや水泳などの習い事を始めました。大変な毎日でしたが、歌うことだけは特別でした。特にピアノを続けていたことで、音の重なりやリズムを知ることができ、僕の音楽の世界は広がっていきました。

その成果を試そうと、小学四年生の時に地域のほど自慢大会に挑戦しました。選んだ曲は、「青と夏」です。全力で歌い切り、準優勝をつかみとることができました。母は自分のこと以上に喜び、笑顔を見せてくれました。あの時、ステージから見た母の楽しそうな表情は、今も僕の心の中にあります。しかし、そんな僕に大きな悲しみが訪れました。二ヶ月前、大好きだった母が亡くなったのです。突然の出来事にあんなに大好きだった歌も消えそうになっていました。絶望の中にいた僕を救ってくれたのは、母がのこしてくれた言葉でした。

「そうすけは本当に頑張り屋さんだね。」

習い事の送りむかえの車内で、母がいつもかけてくれた優しい声。その言葉を思い出した時、止まっていた僕の時間が動き出しました。母が応援してくれた僕の歌を止めてはいけない。歌い続けることこそが、母との一番の約束だと気づきました。

母が亡くなって二ヶ月。僕は今、再び前を向いています。心の中には今もあの日の母の笑顔がかがやいています。僕の夢は明日を生きる勇気を与えられる歌手になることです。母が教えてくれた「人を笑顔にする力」をしんじて、いつか世界中の人々と天国に最高の笑顔の輪を広げるその日まで。